

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2021年 第50週（12月13日～12月19日）

今週のコメント

～感染性胃腸炎～ 手洗いの励行、排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「感染性胃腸炎 さらに増加」

第50週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は 2,685例であり、前週に比べて微増であった。

報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、手足口病、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しん、ヘルパンギーナの順で、定点あたり報告数はそれぞれ 10.70、1.38、0.44、0.25、0.24である。

感染性胃腸炎は前週比5%増の2,107例で、大阪市北部14.43、大阪市南部14.22、南河内14.06、北河内13.81、堺市11.68であった。

手足口病は30%減の272例で、南河内2.88、泉州2.60、中河内・堺市2.00である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は18%増の87例で、中河内1.25、大阪市南部0.89、南河内0.81であった。

ヘルパンギーナは24%減の47例で、大阪市北部0.43、泉州0.40、堺市0.37である。

今週の感染性胃腸炎の年齢分布をみると6歳未満が77%を占めた。

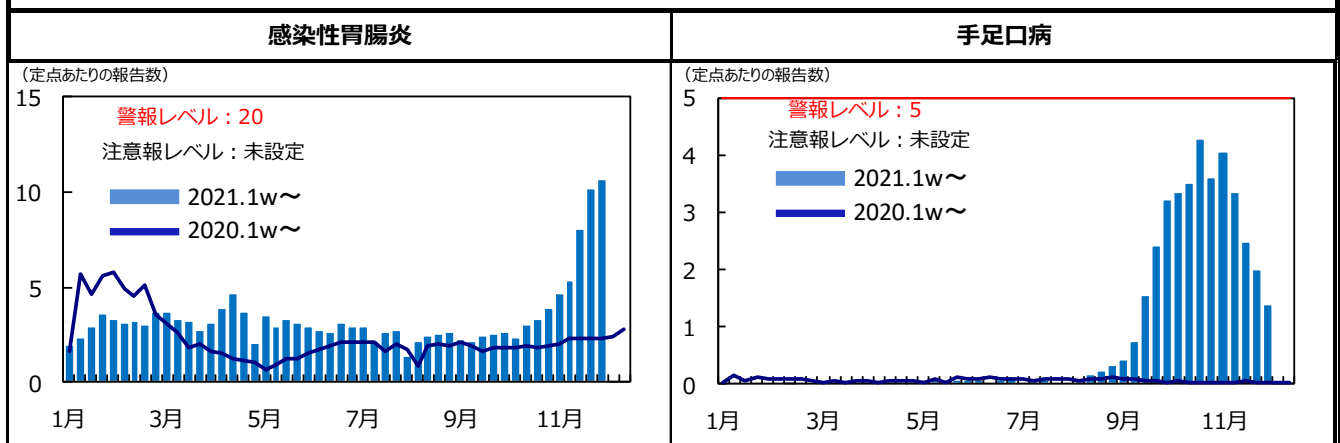


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2021年 第50週12月13日～12月19日）

第50週の順位	第49週の順位	感染症	2021年 第50週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2020年 第50週の 定点あたり 報告数	2021年第50週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	10.70	5%増	2.28	1歳_18%
2	2	手足口病	1.38	30%減	0.02	1歳_46%
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.44	18%増	0.72	2歳_16%
4	5	突発性発しん	0.25	2%増	0.38	1歳_62%
5	4	ヘルパンギーナ	0.24	24%減	0.11	1歳_43%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.00	67%減	0.01	6歳(1例)_100%

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。第36週からインフルエンザの新シーズンの集計が始まりました。

第50週のコメント

～梅毒～ 大阪府における梅毒累計報告数は昨年同時期より少ないが、全国では2020年4,412例、2021年7,326例と増加している

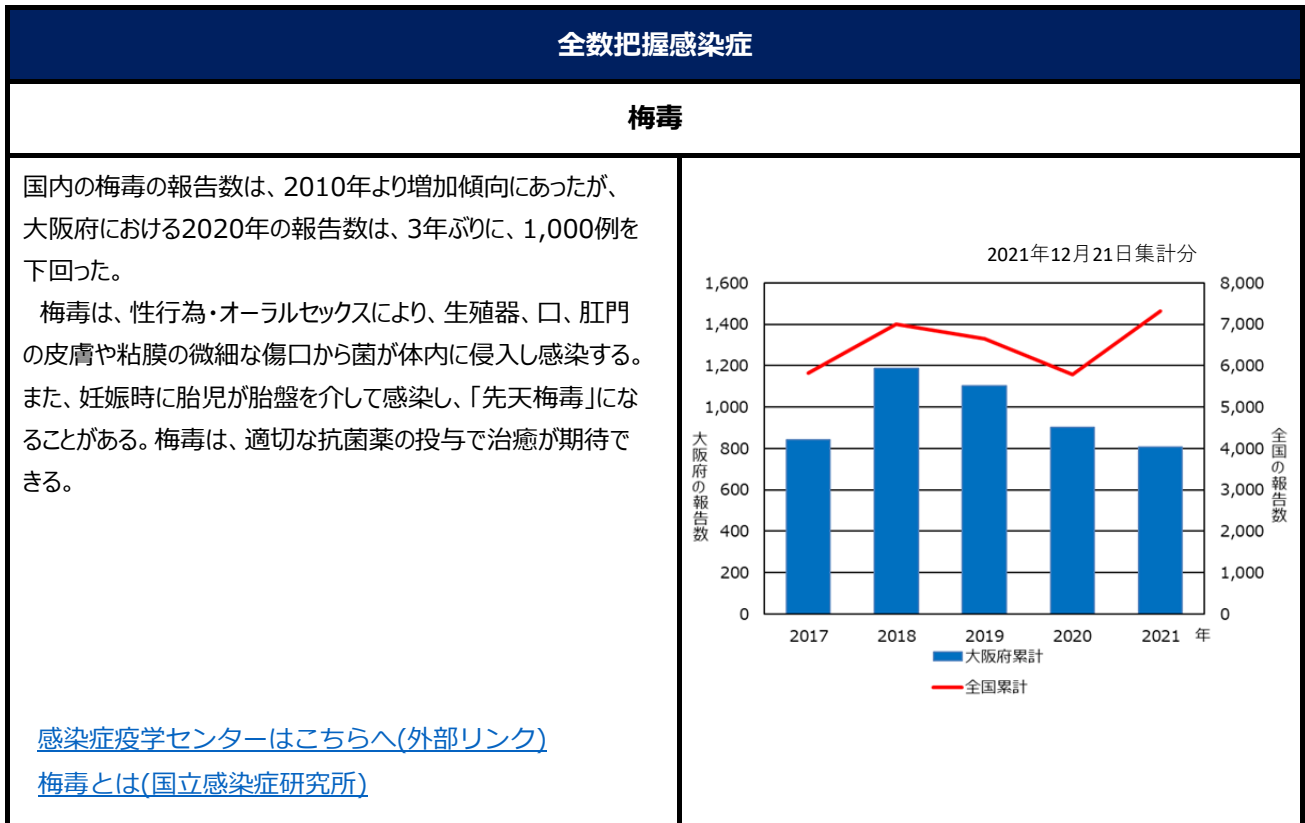


表2. 大阪府全数報告数（2021年 第50週12月13日～12月19日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 () 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1					1				181
4類感染症	E型肝炎	1				1					11
	レジオネラ症（肺炎型）	1								1	131
5類感染症	アメーバ赤痢	2			1	1					48
	カルバペナム耐性腸内細菌科細菌感染症	1		1							175
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1								1	37
	後天性免疫不全症候群	1								1	100
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1		1							18
	梅毒	10		3						7	807
	播種性クリプトコックス症	1		1							8
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	89	2020年1月以降累計 203,372								
結核 (2021年10月分)	結核 新登録患者数：79名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 28名) (府内累積報告数 925名、内 肺・喀痰塗抹陽性 360名)										

(2021年12月21日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

詳細はリンク先の『令和2年11月1日まで』と『令和2年11月2日以降』をご覧ください。